

遠隔授業実践ポイント集・実践事例 (令和6~7年度)

令和6年度～令和7年度において実施された文部科学省「各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業(学びの機会の充実ネットワーク)」においては、全国で様々な教科・科目充実型の遠隔授業実践が生まれました。

本資料はこうした各地の実践に基づいて作成した「遠隔授業実践ポイント集」に紐づく、採択地域の実践事例をまとめたものです。

遠隔授業実践ポイント集	2
遠隔授業実践ポイント集ができるまで	3
遠隔授業にも活きる授業づくりの視点	4
つくりたい授業のかたちを考える	5
学びをうながす仕掛けをつくる	
1 自律的な学び	6
2 個別最適な学び	8
3 協働的な学び	10
距離を超えて生徒が参加できる工夫と連携	12
離れた場所にいる生徒との関係を構築する	
1 生徒の背景理解	13
2 生徒の状況把握	14
3 信頼関係の醸成	15
多様な生徒が取り組みやすい授業の土台をつくる	
1 受信校と連携した学びの基礎づくり	16
2 離れた場所にいる生徒との関係構築	17
ICTツール一覧	19

遠隔授業実践ポイント集



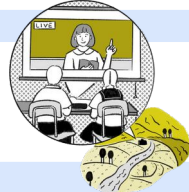
本資料は「各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業」における全国での遠隔授業（教科・科目充実型）の実践から、授業づくりのポイントを整理したものです

🔍ご自身の配信環境や状況に合わせて、特に意識したい・大切にしたいポイントを選び、授業づくりや振り返りの観点として活用ください

遠隔授業にも活きる授業づくりの視点

つくりたい授業のかたちを考える

- 1 授業づくりの指針を立てる
遠隔授業を実施するうえで、授業者として大切にしたいことをもとに、つくりたい授業のかたちを考えます
- 2 目的に応じた方法の整理
つくりたい授業のかたちに応じて活動や評価の方針を立て、使用する教材やツールを整理します



学びをうながす仕掛けをつくる

A 自律的な学び

- 3 目標や評価基準の共有
目標や評価観点を事前共有し、生徒自身が自己評価や相互評価を行えるようにします
- 4 生徒主体の活動時間の設定
単元もしくは授業の中で、生徒がみずから考え活動する時間を意識的に設定します
- 5 自律に繋げる振り返り
活動後に生徒が学びの過程を振り返り、次の行動を考えることができるよう促します

B 個別最適な学び

- 6 教材・記録のクラウド共有
授業で使用した教材や記録をクラウドにアップロードして、いつでもどこでも生徒がアクセスできるようにします
- 7 多様な取り組み方の提示
手書き・デジタル入力・音声・動画など複数の方法を提示し、自分のスタイルに応じて選択できるようにします
- 8 個別の学習フィードバック
チャットやメッセージを介し、生徒の疑問や振り返りに返信したり、成果物にコメントしたりと個別対応の機会をつくります

学習内容

学習方法

個別対応

C 協働的な学び

- 9 多様なアイデアの表現と共有
共同編集が可能なツール上に表現された互いの考えや成果物に対して、フィードバックや相互参照ができる環境をつくります
- 10 遠隔ならではの出会い創出
遠隔授業の特性を生かし、校外と積極的に接続することで多様な価値観や視点に触れる機会をつくります

距離を超えて生徒が参加できる工夫と連携

離れた場所にいる生徒との関係を構築する

- 11 受信校の学習環境の理解
受信校の機材や教室の配置、生徒が使えるツールなどを事前に把握します
- 12 学校生活の様子の理解
受信校の時間割、行事予定、通学環境など、学校生活に関する基本情報を把握します
- 13 生徒一人ひとりの理解
受信校と定期的に連絡し、希望進路・習熟度・支援上の配慮事項などを把握します

B 生徒の状況把握

- 14 生徒の声を拾う仕組み
チャット、メッセージ、リアクションボタン、アンケートなど、生徒と授業者を繋ぐツールを複数用意します
- 15 学びのプロセスの可視化
生徒の思考の過程や取り組み状況を可視化し、授業者の声かけや生徒の協働のきっかけとして活用します

C 信頼関係の醸成

- 16 生徒一人ひとりとの個別コミュニケーション
授業中に名前を呼びかけたり、個別のチャットや面談でのやりとりを行います
- 17 肯定的なフィードバック
授業への取り組みや思考の過程から良い点を見つけ、前向きな声かけを意識的に行います
- 18 教員の自己開示
教員自身の経験や感じていることを言葉にして共有し、親しみやすさや信頼感を高めます

多様な生徒が取り組みやすい授業の土台をつくる

A 受信校と連携した学びの基礎づくり

- 19 受信校との相互理解
受信校側と互いの役割を確認するとともに、それぞれの立場で見える状況や視点を共有します
- 20 遠隔授業の円滑な実施に向けた支援
受信校と連携して、機器・ツールの操作方法や、トラブル発生時の対処方法、遠隔授業が開講される目的等の理解を深める支援を行います

B 伝え方の工夫

- 21 メリハリの意識
対面授業以上にはっきりとした表情やジェスチャー、声のトーンなどを意識的に用います
- 22 授業展開の明確化
授業展開や指示内容を明確に示すことで、生徒がスムーズに授業の流れを理解できるようにします
- 23 情報量の調整
スライドの内容を絞ったり、見るべきポイントを明確にしたりすることで生徒が情報を受け取りやすくします

遠隔授業実践ポイント集ができるまで

概要：

「遠隔授業実践ポイント集」は、令和6年度～7年度にかけて行われた各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業(学びの機会の充実ネットワーク)採択地域における遠隔授業(教科・科目充実型)見学やその後のインタビューで収集した知見、本年度実施された配信教員向けの対面参集機会及びオンラインでの教科別・課題別分科会で交わされた意見、年度末に実施したアンケート調査での回答内容等に基づき、今後教科・科目充実型の遠隔授業を振り返り・改善していく際のヒントとなるアイデアを整理したものです。

制作スケジュール：

2024年9月～	各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業採択自治体での遠隔授業見学
2025年1～2月	配信教員および受講生徒対象の年度末アンケート調査実施
2025年4月～	配信教員向け教科別・課題別分科会の実施
2025年8月	プロトタイプ版の作成 配信教員からのフィードバック収集
2025年9月～10月	有識者からのフィードバック収集
2025年11月～12月	フィードバックを元に現在の暫定版を作成
2026年1月～3月	暫定版に基づき、自身の授業を振り返るワークシートを構想 配信教員からのフィードバック収集

遠隔授業にも活きる授業づくりの視点

遠隔授業であっても、目指したい学びの姿を思い描きながら、活動や評価の方針を考えていくプロセスそのものは、これまでの対面授業と大きく変わるものではありません。

その一方で、クラウドツールを用いたリアルタイムでの意見共有や、場所を問わず多様な外部とつながることなど、遠隔だからこそ取り入れやすい実践もあります。目的に応じて教材や方法を選択することで、対面授業と同様に、あるいは場面によってはそれ以上に、多様で豊かな学びを広げていくことも期待できます。遠隔授業への取り組みは、これまでの授業を見つめ直し、新たな工夫を加えていくきっかけにもなりえます。

本章では遠隔授業にも活かすことのできる授業づくりのポイントについて、令和6～7年度の実践事例とともに紹介します。

つくりたい授業のかたちを考える

ポイント

■ 授業づくりの指針を立てる

遠隔授業を実施するうえで、授業者としてこだわりたいことや大切にしたいことをもとに、つくりたい授業のかたちを考えます

■ 目的に応じた方法の整理

つくりたい授業のかたちに応じて活動や評価の方針を立て、使用する教材やツールを整理します

R7年度全国の配信教員より共有された「つくりたい授業のかたち」

生徒を「当事者」として巻き込むセッション型の授業の実現(数学)

「問題解決」を軸に据えた探究学習の基礎構築(情報)

生徒が常に考え、動き続ける授業デザイン(英語)

答えのない問いに対し、根拠を持って意見を述べる学び(英語)

生徒自らがビジネスモデルを構築する探究的支援(商業)

受験指導と協働学習を両立させる「あそび」の創出(物理)

自然界への興味関心と科学的思考力の育成(生物)

教員に依存せず自走できる「学び方を学ぶ」姿勢の定着(情報)

2025年7月30日、8月6日開催

「遠隔授業配信授業者合同ミーティング」での発表資料より抜粋

目標や評価基準を共有する

- 学習管理システム上でのルーブリックの提示やToDoリスト作成

学びの振り返りを促す

- Webアンケートフォームで振り返りアンケートの実施

教材や記録をいつでもどこでもアクセス可能にする

- 学習管理システム上でのアーカイブ化
- 共同編集ツールでの教材・課題一覧化および進捗状況の可視化
- AIツールを用いたオリジナル教材の制作

個別に学習フィードバックを行う

- 学習管理システム上での限定公開コメント機能での個別質問対応
- 学習支援ソフト上での筆談での個別フォロー

多様なアイデアの相互参照を促す

- 学習管理システム上でのチャット機能を活用した意見の投稿
- 共同編集ツールでの意見の書き込み

学びのプロセスを可視化する

- 共同編集ツールや学習支援ソフトで生徒の思考過程を一覧表示

内容理解や技能の定着を促す

- 学習管理システム上の付属AIによる音読練習と自動評価
- クイズツールを用いたゲーミフィケーションの導入
- Webアンケートフォームを用いた単元ごとの理解度確認や小テストの実施

伝え方を工夫する

- 学習支援ソフトや共同編集ツールでの作図や計算式共有
- プレゼンテーションツールやホワイトボード・黒板の板書投影

▲ 活動の方針に応じたツールの使用例

1 自律的な学び

ポイント

■ 目標や評価基準の共有

目標や評価観点を事前共有し、生徒自身が自己評価や相互評価を行えるようにします

■ 生徒主体の活動時間の設定

単元もしくは授業の中で、生徒がみずから考え活動する時間を意識的に設定します

目標や問いの共有

- 毎時「問い」を冒頭に配したA4プリントを配布。教科書と連動し1枚でテーマを完結できるよう構成し、学習の振り返りにつなげる(生物)
- 授業管理システムで授業毎のページを作成し、問いやToDoをあらかじめ記載しておく(情報)
- パフォーマンステストの内容を最初に生徒に伝えて、それを意識しながら授業を受けるように指導している(英語)
- 本時の目標および自己評価を行う局面を生徒に事前共有する。そうすることでどこがハイライトなのかを伝え、後から見返した時にもどんな活動をしたか思い出せるようにしている(数学)

授業構成の工夫

- 配信センターの教員間で、各教科・科目の授業において教員が「20分間黙る時間をつくる」方針を定める
- 反転学習で事前に学んだ内容を他の生徒に共有する時間を設ける(地理歴史、情報)
- ジグソー法で、自身の担当箇所をグループに説明してもらう(地理歴史)

時間	内容	教師	インタラクション (教師-生徒間)	生徒(生徒のみの活動)		時間(分)	協働	内容	時間(分)
				個別	内容				
11:45	授業開始、説明								
11:50	復習(Chatで答える)	出題、確認、説明	○	○	Chatで答える	1	○	話し合う	2
11:55	具体例の説明	説明(文筆等)	○						
12:00	具体例の説明	説明(F1、歩行)	○						
12:05	問題の振り返り	A君の足の摩擦力の方向	○						
12:10	右側のページ(動摩擦力学)	説明(yorubi)、問21出題	○	○	Chatで答える	3			
12:15	問題の答え合わせ	説明、解説	○		(2)やり直し	1			
12:20	問題の答え合わせ	説明、解説	○						
12:25	出口アンケート指示				出口アンケート	3			
					合計	8		合計	2

▲ 配信センターでの授業見学記録(鹿児島県)

評価基準の共有

- 生徒がどこに力を入れれば良いかが見えるように、事前に評価基準が掲載されたルーブリックを提示する(商業)

生徒同士の協働

- 学習内容を早く理解できた生徒には、授業者の代わりとして、周囲の生徒にフォローするよう促す(情報)
- 演習中は生徒同士の会話を制限せず、互いに説明し合う機会を作る(物理)



◀ 学び合いの様子(長崎県)

学びをうながす仕掛けをつくる

1 自律的な学び

ポイント

■ 自律に繋げる振り返り

活動後に生徒が学びの過程を振り返り、次の行動を考えることができるよう促します

- 毎授業最後の5分程度を使用し、Webアンケートフォームにて事後アンケートを実施。3段階の自己評価に加え、その時間に学んだ内容や次の授業までに行うべきことの言語化を促す
- 感想や気づきを入力する際に、授業で習ったことが日常生活のどこで生かせそうかを踏まえるよう促す(情報)

令和7年度 令和7年度 質問 回答 2,410 設定

令和7年度 出口アンケート

B I U 設定

今日の授業について、以下のアンケートに記入しましょう。

日付*

年 月 日

6月17日 10:30
現在
生徒たちにはブックマークさせておき、素早く答えてもらう。

1 学んだこと*

今日の授業で主に学んだことを入力してください。例:「プログラム方法について」「現在完了について」等

回答を入力

2 振り返り*

A:よくできた、B:ある程度できた、C:まだ理解が難しい
評価対象外

目標を達成できた。

目標達成に向けて、粘り強く取り組んだ。

積極的にペア・グループ活動に取り組んだ。

3 新たな目標*

今日の授業を受けて、次の授業までに学習したいことを具体的に書いてください。(例: 今日復習して、〇〇を極める/今日出てきた項目を全部覚える、など)

回答を入力

4 学習の感想や質問等*

授業を受けて、今日習ったことに関して、感想や疑問等を入力してください(〇〇の法則は面白かった/今日の問題は難しかったので、もっと練習したい、など)。質問や次の授業で扱ってほしいこと等も大歓迎です。

回答を入力

送信 フォームをクリア

次の授業までに学習することを言語化させる

質問等を受け付ける項目。
教員が共通の質問を投げることも(生徒理解)
“Who is your favorite singer or band?”
「好きな晩ごはんのおかずは？」

2 個別最適な学び

ポイント

■ 教材・記録のクラウド共有

授業で使用した教材や記録をクラウドにアップロードして、いつでもどこでも生徒がアクセスできるようにします

■ 多様な取り組み方の提示

手書き・デジタル入力・音声・動画など複数の方法を提示し、自分のスタイルに応じて選択できるようにします

教材の共有

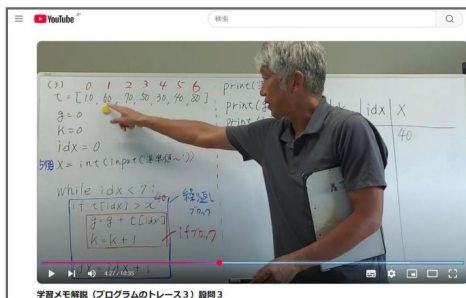
- 単元ごとに必要な教材セットや自由課題を学習管理システムやオンライン掲示板、アクセスを限定した専用ページ等で配信する
- 説明に時間がかかるものや手順が煩雑なものを中心に解説動画を事前作成し、授業中や自宅での視聴を促す(情報)
- AIツールで授業に関連した音声やテキストを作成し共有する(物理、公民)
- 事前に問題演習の際のヒントカードを作成し、各生徒が必要なタイミングで使用できるようにする(物理、公民)

多様な取り組み方

- ディクテーション課題において、PC入力かノートへの手書きかを生徒が選択できるようにする(英語)
- パフォーマンステストの実施形態について、生徒の希望や特性に合わせてリアルタイムか録音かを選べるようにする(英語)
- 授業プリントと全く同じものを授業支援ソフトに入れて、どちらで取り組むかを生徒に選択させる(数学、理科)



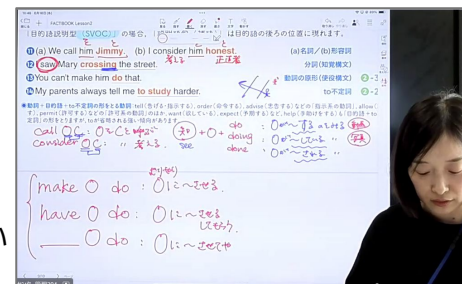
▲ 学習管理システムでの教材配信(山形県)



▲ 解説動画の配信(長崎県)

記録の共有

- 入試問題等の解説時にオンライン会議システム上で録画を開始し、授業後にスライドと共に共有する(数学)
- 解説メモを学習支援ソフト上に残し、いつでも見返せるようにする(英語)



▲ 解説メモの配信(長崎県)

2 個別最適な学び

ポイント

■ 個別の学習フィードバック

チャットやメッセージ機能を介し、生徒の疑問や振り返りに返信したり、成果物にコメントしたりと個別対応の機会を作ります

授業中のフィードバック

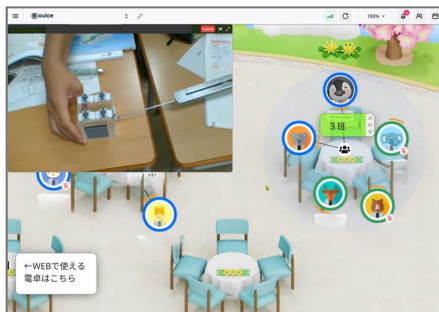
- オンライン会議システムのチャット機能で設問への解答を収集。答えを書けていない生徒にのみ、ダイレクトメッセージでヒントを送る
- 学習支援ソフトや共同編集ツール上で、生徒の書き込みに対して個別に筆談でコメントやヒントを送る(数学)
- メタバース空間でグループワークを行わせ、声掛けを行う(物理)
- 机間巡視ロボットで受信校教室を巡回し、声掛けを行う(数学、英語)

授業外のフィードバック

- 共同編集ツールに授業の感想を入力させ、次回授業までに返信する(物理)
- 共同編集ツールのコメント機能で個別にフィードバックを送信(英語)
- 授業後のアンケートで受け付けた質問に対し、必要に応じて個別回答



▲ チャットでの個別指導(長崎県)



▲ メタバース空間での個別指導(長崎県)



▲ 机間指導支援アバター(temi)での個別指導(大分県)

3 協働的な学び

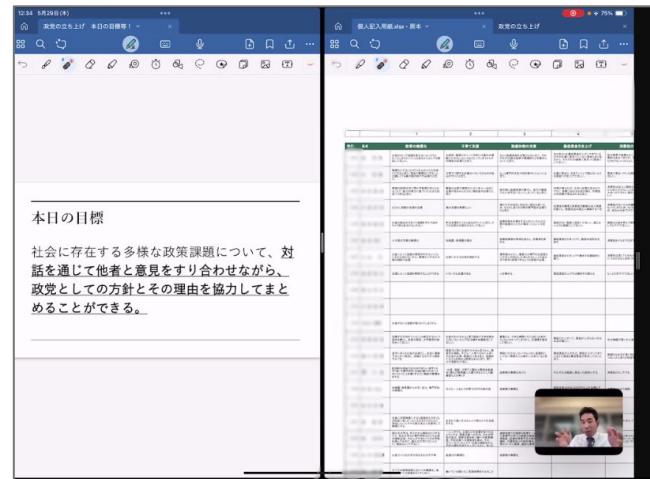
ポイント

■ 多様なアイデアの表現と共有

共同編集が可能なツール上に表現された互いの考えや成果物に対して、フィードバックや相互参照ができる環境をつくります

互いの考えを相互参照できる仕組み

- 共同編集ツール上で、各自の意見を入力し、互いに参照しながらブラッシュアップする(公民、英語)
- 共同編集ツール上で、アイデアの共有や作図を行う(数学、物理)
- 共同編集ツールを複数の受信校で共有し、非同期で意見交換をする(生物)
- 学習管理システム上で、複数の受信校が合同で投稿できる質問箱を設置する(物理)



▲ 共同編集ツールへの記入(山形県・鹿児島県)

3 協働的な学び

ポイント

■ 遠隔ならではの出会い創出

遠隔授業の特性を生かし、学外と積極的に接続することで多様な価値観や視点に触れる機会を提供します

生徒同士の出会い

- 異なる学校の生徒同士が、オンライン会議システムやメタバース上で交流や発表活動、相互評価を行う
- 異なる学校の生徒同士が、共同編集ツール上で意見を共有する(生物)
- 異なる教育課程を持つ学校(普通科と商業科)同士で混合班を作成し、互いの知識を共有しながら共にプロジェクトを進める(商業)



▲異なる学校の生徒同士でのグループディスカッション(大分県)



▲県を超えた英語での発表活動(高知県・鹿児島県)



▲教育課程の異なる学校同士での合同授業(熊本県)

専門人材との出会い

- 県内ALTとの遠隔チームティーチングを強化し、パフォーマンステストやディスカッション活動を充実させる(英語)
- 大学教員等の専門家と接続し、プロジェクトの助言を受ける(情報)
- 県内の科学館との連携授業を行う(物理)



▲専門的知見をもつ授業者からの助言(島根県・鹿児島県)



▲科学館との連携授業(静岡県)

距離を超えて生徒が参加できる工夫と連携

対面授業では、授業中の机間巡視や、職員室で耳にするちょっとしたエピソード、休み時間や学校行事、部活動など、さまざまな場面を通して生徒と関わりながら、その様子を自然に感じ取ることができました。遠隔授業ではこうした日常的なやり取りの形は変わりますが、オンラインのツールや学校間の連携などを通して、生徒の様子を丁寧に把握し関係を築いていくことが大切になります。

遠隔授業では、そのような工夫を意識的に取り入れながら、生徒の様子を多面的に捉えていくことが重要になります。例えば、受信校の担当者と連携して生徒の背景を理解することや、チャットやリアクション機能を活用して小さな声を拾い上げることが考えられます。また、配信側の表情や声のトーンといった非言語的なコミュニケーションにも気を配ることで、心理的な距離を少しずつ縮めていくことが期待できます。

本章では、離れた場所にいる生徒との関係づくりを進め、多様な生徒が参加しやすい授業の土台を整えるためのポイントを、令和6～7年度の実践例とともに紹介します。

1 生徒の背景理解

ポイント

■ 受信校の学習環境の理解

受信校の機材や教室の配置、生徒が使えるツールなどを事前に把握します

事前に確認しておくべき事項(例)

- | | |
|---------------|--|
| ハードウェア・設備 | <ul style="list-style-type: none"> ● 教材や生徒の様子を表示するためのモニター配置の確認 ● 集音マイク、スピーカー等音響の確認 ● 生徒が使用する個人端末の動作確認 |
| ネットワーク環境 | <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒全員が同時に接続した場合のネットワーク状況の確認 ● オンライン会議システムの代替ツールや予備機の有無の確認 ● 配信校と受信校で共通して利用できる県域アカウント設定 |
| ソフトウェア・ツール | <ul style="list-style-type: none"> ● 学習管理システムでのクラス作成、教材配信、課題回収の運用ルールの確認 ● 基本ツールの習熟度合いの確認 |
| サポート体制・スケジュール | <ul style="list-style-type: none"> ● 受信校の担当者との間での役割確認(機器トラブル対応、資料配布、机間巡視、生徒の見取り等) ● 連携校間での授業時数(通常・短縮校時の混在)や定期考査の時期のズレを確認し、年間計画の調整 ● 受信校の内規における評価基準の確認 |

■ 学校生活の様子の理解

受信校の時間割、行事予定、通学環境など、学校生活に関する基本情報を把握します

学校生活の理解を手がかりとする

- 受信校の行事を事前に把握し、授業内での会話を広げるきっかけにする(情報)
- 生徒の所属する部活動等、実生活と授業内容を関連づけて授業を展開する(数学)

■ 生徒一人ひとりの理解

受信校と定期的に連絡し、希望進路・習熟度・支援上の配慮事項などを把握します

受信校との情報共有

- 支援が必要な生徒について、受信側の支援員と情報を連携する
- 支援員に生徒と個別で話をしてもらい、その情報を共有してもらいながらコミュニケーションを取る
- グループ活動を行う際に、生徒のふだんの学校生活の様子や役割をふまえ、グループ分けを担当を含む受信側教員にお願いする(情報)
- 受信校側の担当者と話をする中で、生徒同士の人間関係を把握する(公民)

離れた場所にいる生徒との関係を構築する

2 生徒の状況把握

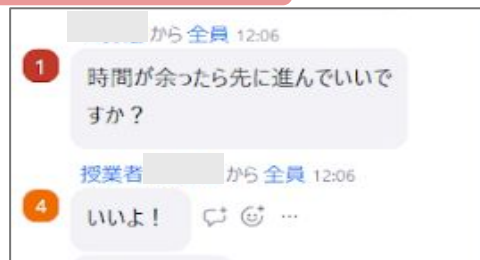
ポイント

■ 生徒の声を拾う仕組み作り

チャット、メッセージ、リアクションボタン、アンケートなど、生徒と授業者を繋ぐツールを複数用意します

- 各生徒の考えを収集したい時は個別チャット、各生徒の考えをクラスで共有したい時はグループチャットと、機能を使い分ける(情報)
- ワーク中の質問をチャットで受け付けられるようにする(公民)
- 問題を解いた後、授業管理システム内の指定箇所へ生徒にリアクションボタンで反応してもらい、解説が必要かを確認する(情報)
- 共同編集ツールに匿名で質問や疑問点を入力できるようにする
- 問題演習中、生徒の机の上に設置した札で状況を示すよう促す(物理)
- 一人一台端末でオンライン会議システムに入室してもらい、表情やリアクションボタンで様子を把握する(公民、数学、英語)

チャット



▲ ワーク中のチャットでのやりとり(鹿児島県)

リアクションボタン



▲ リアクションボタンでの進捗確認(長崎県)

その他



◀ 机の上のカードで自身の状況を知らせる(静岡県)

■ 学びのプロセスの可視化

生徒の思考の過程や取り組み状況を可視化し、授業者の声かけや生徒の協働のきっかけとして活用します

- 受信側への書画カメラ設置による進捗状況の把握(物理、地理歴史)
- 共同編集ツールや学習支援ソフトで生徒の回答を一覧表示することによる進捗状況の把握およびそれを起点としたヒントの提示や好事例の共有
- 小問に区切った演習問題を作成し、つまづきのポイントを把握(物理)

可視化ツール(例)

- MetaMoji
- ロイロノート
- Google ドキュメント
- Google スライド
- Google スプレッドシート
- Google Collaboratory
- インタークラスクラウド
- スカイメニュー
- 電子黒板XSync Prime



▲ 共同編集ツールに各生徒の専用ページを用意し、一覧表示で進捗状況を確認(岩手県)

離れた場所にいる生徒との関係を構築する

3 信頼関係の醸成

ポイント

■ 生徒一人ひとりとの個別コミュニケーション

授業中に名前を呼びかけたり、個別のチャットや面談でのやりとりを行います

- その生徒だけが見られる振り返りシートを用意して感想や意見をもらうことで、特性や理解度を把握し、次の授業デザインに活かす
- 対面授業時やオンライン会議システムで個別面談を行う

■ 肯定的なフィードバック

授業への取り組みや思考の過程等から良い点を見つけ、前向きな声かけを意識的に行います

- 対面授業以上にポジティブな声かけを意識する(英語)
- 活動後のアンケートにおいて自己評価と共にメンバーのよかったところを回答してもらい、該当生徒に共有する(公民)

■ 教員の自己開示

教員自身の経験や感じていることを言葉にして共有し、親しみやすさや信頼感を高めます

- 自己紹介カードを作成して年度初めに共有する(数学、英語)
- 授業前後に個人的な成績や進路の話題を避けた日常的な雑談を意識的に行う(数学)

対面授業実施内容(例)

関係構築とガイダンス

- 生徒、教員それぞれの自己紹介
- 遠隔授業の進め方や、使用ツールの操作確認、設定の指導を行う授業ガイダンス
- 年間の学習内容や目標を提示するシラバスの説明
- 生徒の将来の展望、興味、学習上の悩みについて深く対話するための個人面談
- 授業の運営改善に活かすための、遠隔授業に対する要望の聴取

実習・実験・高度な技能習得

- 実験器具の準備、調整、および実際の機材を用いた観察や実験(理科)
- 初めてのテキストプログラミング導入期における、複雑な構文ルールの解説と対面でのきめ細やかな質問対応(情報)
- 生徒の手元の動きや思考プロセスを直接確認しながら進める高度な問題演習(数学、情報)

評価とフィードバック

- 定期考査などのテスト問題についての解説や内容の確認
- 答案を直接返却しながら、個別の到達度に基づいた具体的なアドバイス
- 画面越しでは見取りが困難な生徒の些細なつまずきや反応を捉えた、直接的な学習フォロー

1 受信校と連携した学びの基礎づくり

ポイント

■ 受信校との相互理解

受信校側と互いの役割を確認するとともに、それぞれの立場で見える状況や視点を共有します

- 配信側でできること・できないことを精査したうえで、受信校側の担当者をお願いしたいサポート内容をまとめた授業計画表を作成し、事前に共有する
- 授業前後に、受信校側の担当者と情報共有をする時間を設ける
- 受信校の担当者を配信センターへ招き、配信教員側からの見え方を理解してもらう

A		B		C		D		E		日付	4/22	~	4/24
1 遠隔授業計画表 (連絡票)													
2 ※積極的に取り組もう!													
4	学校名	学年	教科	配信できない時や停電時の対応									
5	喜界高校	3年	政治・経済	プリントを進めてください。									
6													
7 接続情報 (Zoom)													
8 ※「遠隔授業協力員」の動き													
10	日付	校時	内容	内容	分	印刷	配布	回収	机間	巡視	備考		
11	4月22日 (Tue)	4	1	政治権力の正当性	5								
13			2	社会契約論	20								
14			3	法の意義	20								
15			4	法の機能	5								
15			5	出口アンケート	5								
16 連絡事項													
17	4月23日 (Wed)	なし	1										
18			2										
19			3										
20			4										
21			5										
22 連絡事項													
23	4月24日 (Thu)	4	1										

▲ 受信側に共有する授業計画表(鹿児島県)

■ 遠隔授業の円滑な実施に向けた支援

受信校と連携して、機器・ツールの操作方法や、トラブル発生時の対処方法、遠隔授業が開講される目的等の理解を深める支援を行います

基本スキルの支援

- ビデオ会議システムの基本操作
- 共同編集ツールやクラウドシステムの基本操作
- 基本的なトラブルシューティング
- ファイル管理の手法 等

情報科における支援

- プログラムのエラーなど、配信側からは把握しきれない細かな状況について、専門知識を持つ協力員が見取りや操作支援を行う(情報)
- 受信側の支援員が専門教科外であっても、生徒の機器操作に関する細かな困りごとをサポートしている(情報)

2 伝え方の工夫

ポイント

■ メリハリを意識したふるまい

対面授業以上にはっきりとした表情やジェスチャー、声のトーンなどを意識的に用います

ジェスチャーや表情

- 一貫したジェスチャーを使用する
- 普段よりも声のトーンをあげ、はっきりとした表情を意識する



▲ はっきりとしたわかりやすいジェスチャーを一貫して使用する
(鹿児島県)

■ 授業展開の明確化

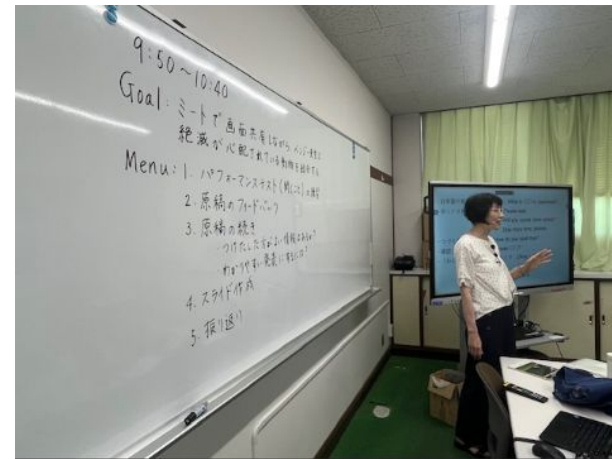
授業展開や指示内容を明確に示すことで、生徒がスムーズに流れを理解できるようにします

授業構造の明確化

- 授業の基本構成をルーチン化して定着させ、そのうえで新しい取り組みや課題を明確に切り分けて提示する
- 現在何に取り組むべきかを、都度スライドやホワイトボードで大きく提示する(英語、数学)
- 問題演習のみ・実験のみ、など毎回の授業構成を単純にする(物理)

迷いを生じさせない情報の提示

- 画面の問題と手元プリントの表記や改行を完全に一致させる(数学)
- スクリーンショットをふんだんに使い、具体的に作業手順を示す(情報)



▲ ホワイトボード上で本時の目標の明示(高知県)

2 伝え方の工夫

ポイント

■ 情報量の調整

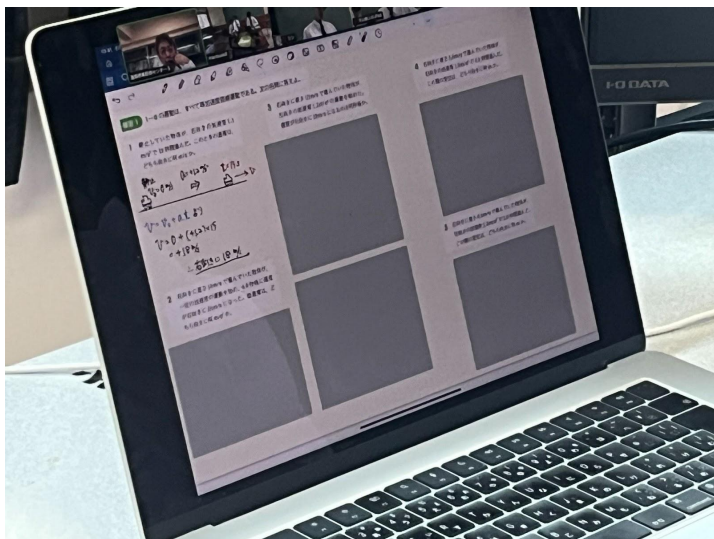
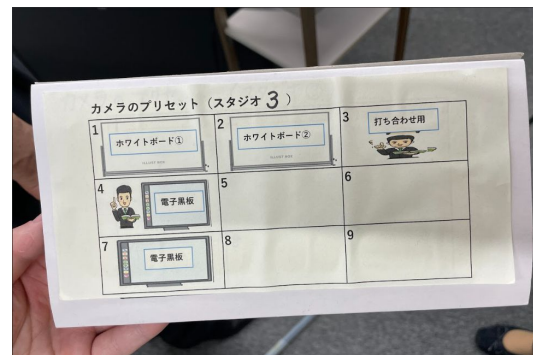
スライドの内容を絞ったり、見るべきポイントを明確にしたりすることで、生徒が情報を受け取りやすくします

情報量の精選

- 活動内容や発問を精選し、情報量や活動の密度を調整する
- 指示や発問、教材をシンプルに提示し、要点を絞り込む

視野のコントロール

- 解説箇所を図形で覆い、外しながら順番に見せる(物理)
- ホワイトボード、電子黒板などを用途に応じて複数用意し、必要なタイミングでカメラの画角を切り替える



▲ 必要な情報以外を図形で覆い、一度に伝わる情報量を調整(鹿児島県)



▲ 複数の提示媒体を用意しカメラの画角を切り替え(高知県)

本資料で掲載しているICTツールの名称とその具体例は下記の通りです。
*各地域の実践から収集した限りのものを記載しています

	ツール名
学習管理システム	Google Classroom, Microsoft Teams など
Webアンケートフォーム	Google フォーム, Microsoft Forms など
オンライン会議システム	Google Meet, Zoom, xSync Prime など
共同編集ツール	Google スプレッドシート, FigJam, Padlet など
学習支援ソフト	MetaMoji Classroom, ロイロノート・スクール など
AIツール	Google AI Studio, NotebookLM, ChatGPT など
クイズツール	Kahoot!, GeoGuessr など
プレゼンテーションツール	Microsoft PowerPoint, Google スライド, Goodnotesなど